

## 第2学年1組 国語科学習指導案

指導者 千葉市立磯辺小学校 中村 雄司

### 1 単元名

音や様子をあらわす言葉

### 2 単元について

本単元では、音や様子をあらわす言葉についての使い方を知り、活用できることがねらいである。音をあらわす言葉の「擬音語」や様子をあらわす言葉の「擬態語」について知り、言葉のまとまりには意味があることを学習していく。

児童はこれまでにたくさんの文章に触れ、物語を読んだり聞いたりしている。本校では、週に3回の朝読書の時間を設けて10分間読書をしている。また、週に1回図書室を利用して、読み聞かせを聞いたり、児童が好みの本を探したりしている。また、2学年で採用している音読教材には31の題材が掲載されていて、国語の時間に少しずつ様々なジャンルの文章に触れている。

そのような学習の中で、本時で学習する「音や様子をあらわす言葉」について見たり、聞いたりしている経験は豊富であると考えられる。しかし、実態としては様子をあらわす言葉の「擬態語」についての認識が低い。日記では、擬音語や擬態語がほとんど使用されないことからそのことが伺える。

そこで、本単元では音や様子をあらわす言葉についてはたらしきや表記の仕方について理解して、文章の中で使うことができるようにさせたい。また、本単元の言語の知識に関しては、今までの学習経験や読書習慣などから、個人差が大きいと考えられる。苦手意識がある児童が少しでも学習に意欲が持てるようにICT機器を活用していきたい。

### 3 児童の実態 (省略)

### 4 単元の目標

- ・身のまわりにある「音や様子をあらわす言葉」をすすんで集めたり、これを使って文を書いたりしようとする。(関心・意欲・態度)
- ・「音や様子をあらわす言葉」の感じ方の違いについて考えたり、理解を深めたりできる。  
(読むこと)
- ・「音や様子をあらわす言葉」を正しい表記で書いている。(書くこと)
- ・「音や様子をあらわす言葉」を効果的に使って文を書いている。(書くこと)

5 指導計画（3時間扱い）

展開	時配	学習内容	評価の観点
第1次	1（本時）	<ul style="list-style-type: none"> <li>「音をあらわす言葉」と「様子をあらわす言葉」のはたらきや表記の仕方について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進んで「音や様子をあらわす言葉」を集めようとしている。 （関心・意欲・態度）</li> </ul>
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「音や様子をあらわす言葉」の感じ方の違いについて話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「音や様子をあらわす言葉」の感じ方の違いについて考えたり、理解を深めたりしている。 （読むこと）</li> </ul>
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>「音や様子をあらわす言葉」を使って文を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「音や様子をあらわす言葉」を正しい表記で書いている。（書くこと）</li> <li>「音や様子をあらわす言葉」を効果的に使って文を書いている。 （書くこと）</li> </ul>

6 仮説との関連

視聴覚・メディア部会の研究仮説

教育メディアの特性を生かして学習で活用すれば、学習効果が高まるだろう。

今年度より、視聴覚・メディア部会での研究テーマと研究仮説が新しくなった。それぞれ、次のように変更された。

<昨年度まで>

研究テーマ「自ら解決できる力と生きる力を育てるメディア教育」

研究仮説「それぞれの教育メディアの特性を生かして学習に活用すれば、情報活用能力が高まり、意欲的に学ぶ子が育つだろう」

↓

<今年度>

研究テーマ「教育メディアを活用して、学習効果を高める指導法の工夫」

研究仮説「教育メディアの特性を生かして学習で活用すれば、学習効果が高まるだろう」

ここ数年で、千葉市のICTの環境整備も進んでいる。全教室に大型テレビが設置され、全学校に電子黒板が設置されている。それにともない、書画カメラなどの整備も進んでいる。

今後は、授業でそれらの教育メディアをどのように活用して学習効果を高めるのか、その指導法の工夫に焦点化していきたい。

### (1) ICT活用と教育効果について

教育現場では、急速にICT環境が整いつつある。しかし、ICTを活用することで教育効果が生まれなければ意味がない。文部科学省では、ICT活用の教育効果を検証する調査研究を独立行政法人メディア教育開発センターに委託し、調査結果をまとめた。調査対象児童は、18,552人である。

【参照HP】 ICTを活用した指導の効果の調査結果について（文部科学省HPより）

[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/19/05/07060706.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/19/05/07060706.htm)

まとめると、次の通りである。

#### (1) ICTを活用した実証授業を行った教員による評価

- ・ 95パーセント以上の教員がICTの活用について効果を感じている。
- ・ 90パーセント以上の教員が、「指導が変わった（例：授業の途中で前時の内容を振り返るなど効率的になった）」、「授業の質が向上した（例：教員の説明がわかりやすくなった）」、「授業改善ができた（例：児童生徒を集中させることができた）」と回答している。
- ・ ICTを効果的に活用することによって、授業の質を高め、授業の改善に役立つと感じている。

#### (2) 児童生徒を対象とした、ICTを活用した授業に対する意識調査

- ・ ICTを活用することにより、授業に対する児童生徒の興味・意欲、満足度が高まるとともに、「正しく理解することができた」や「深く理解することができた」、「内容を先生や友だちに正しく説明できる」など、知識・理解に関する項目についてもICT活用の効果が示された。

#### (3) 児童生徒を対象とした客観テストによる比較調査

- ・ 「小学校 算数」、「小学校 社会」、「小学校 理科」、「中学校・高校 数学」、「中学校 社会」

の実証授業後に実施した客観テスト（テストを受けた児童生徒数：2,991人）の結果について、「技能・表現（例：計算、彫刻、跳び箱）」、「知識・理解（例：蝶の成長、社会の仕組み）」という観点から分析・評価した結果、ICTを活用した授業後に行ったテストの得点が高いことが示された

これらの結果から、ICTを活用することで教育効果を上げることができるといえるだろう。今後は、ICT活用がますます重要視されるだろう。

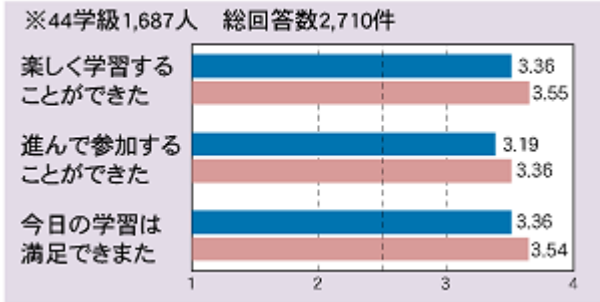
調査結果の詳細は次のグラフの通りである。

(※ 棒グラフ上：ICTを活用していない場合)

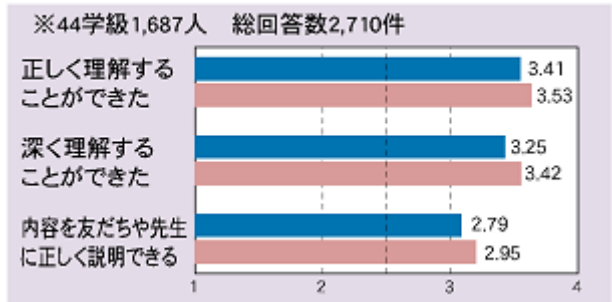
(※ 棒グラフ下：ICTを活用した場合)

【ICT活用は関心意欲や知識・理解を高める】

### ■ 関心意欲に関する質問項目の比較結果

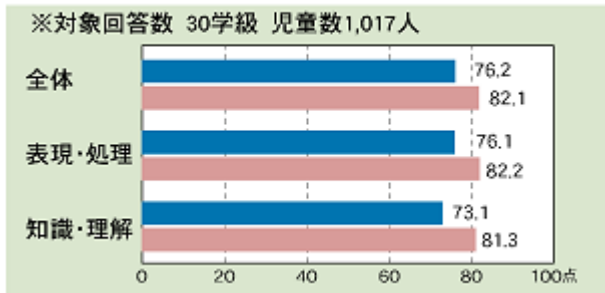


### ■ 理解度に関する質問項目の比較結果

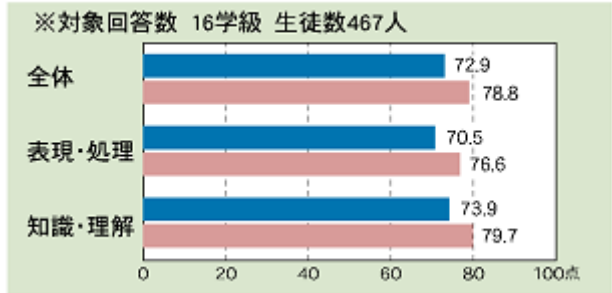


【ICT活用は授業後の客観テストの結果が高い】

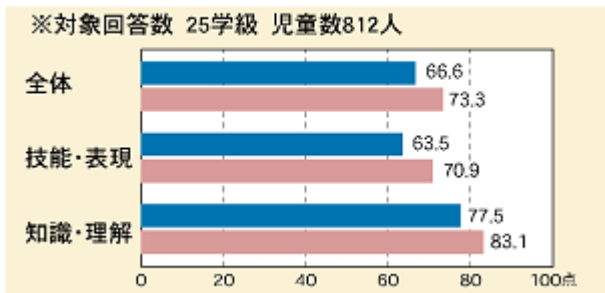
### ■ 小学校 算数の客観テスト結果



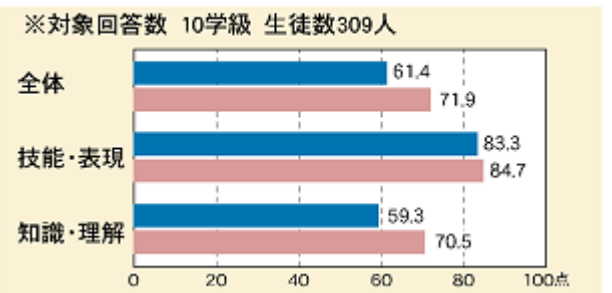
### ■ 中学校・高校 数学の客観テスト結果



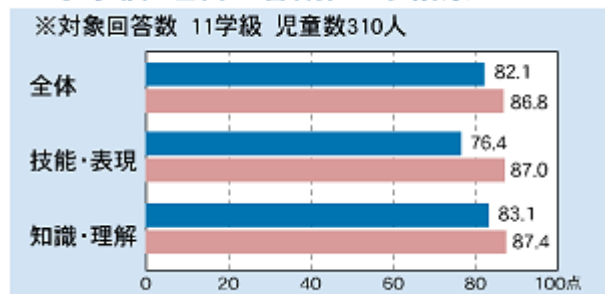
### ■ 小学校 社会の客観テスト結果



### ■ 中学校 社会の客観テスト結果



### ■ 小学校 理科の客観テスト結果



これらの結果から、ICTの活用と学習効果の相関関係があると考えられる。しかし、ICTを活用すれば必ず効果があるというわけではない。そこには、ICTのよさを授業にうまく組み込むことができたという条件が必須である。

## (2) ICTを活用した指導法の工夫

教員の教育メディアの活用については、文科省が作成した「教育の情報化に関する手引」に詳しく書かれている。「第3章教科指導におけるICT活用」には、次の文がある。

教員がICTを活用して情報を提示することは、教員による発問、指示や説明とも関係が深く、すべての教科指導の数多くの場面で実施可能であると考えられる。

(教育の情報化に関する手引き 文部科学省作成)

教員がICTを活用できる場面は、数多く実施可能であると考えられる。これは、視聴覚・メディア部会がこれから研究すべき方向性の1つかもしいない。

しかし、ただICTを活用すればよいというわけではない。子ども相手の授業で使用するのだから、学習課題への興味・関心を高めることができたり、学習内容の理解を深めることができたりする必要がある。そのためには、ICTの機能を最大限に発揮させたい。

ICT活用で一番大切なことは、活用方法である。ICTを活用さえすればよいというわけではない。ICTを教師が上手に活用できなければ教育的効果はのぞめない。

「ICTそのものが児童生徒の学力を向上させる」のではなく、「ICT活用が教員の指導力に組み込まれることによって児童生徒の学力向上につながる」といえる。(前掲書)

ここでいう「教員の指導力」について、具体的に次のように書かれている。

その映像をタイミングよく教員が大きく映して提示したり、提示した映像などを指し示しながら発問、指示や説明をしたりすることで、ICT活用による効果が期待できる。(前掲書)

つまり、ICTを活用した教師の指導力とは次の2と言ってよいだろう。

ICTを活用した教師の指導力

<1> タイミングよく提示する

<2> 発問、指示、説明をする

I C Tの映像を授業のどのタイミングで使用するのか。始めから映像を提示するのか。あるいは、課題を児童にもたせてから提示するのか。どうしてそのタイミングで提示するのかを吟味したい。

また、I C Tを活用した授業で陥りやすいことは、授業がプレゼンになってしまうことである。教師が用意したものを見せながら説明する。児童はそれをずっと聞いている。ただ聞いているだけでは、あまり記憶に残らないだろう。

そうならないためにも、何か活動をさせたい。視点を与えて考えさせながら見せる。あるいは、作業指示を出す。児童の活動が伴うことでより一層I C Tの活用が効果的になるだろう。そのために、「発問、指示、説明」が必要なのであろう。これについては、非常に大切なことなので指導案の本時の展開にも明記したい。

### (3) 本時での活用

本時の学習では、プレゼンソフトのパワーポイントを使用する。

本ソフトで、具体的な場面を提示することで、その状況にあった音や様子を表す言葉を考えさせていきたい。

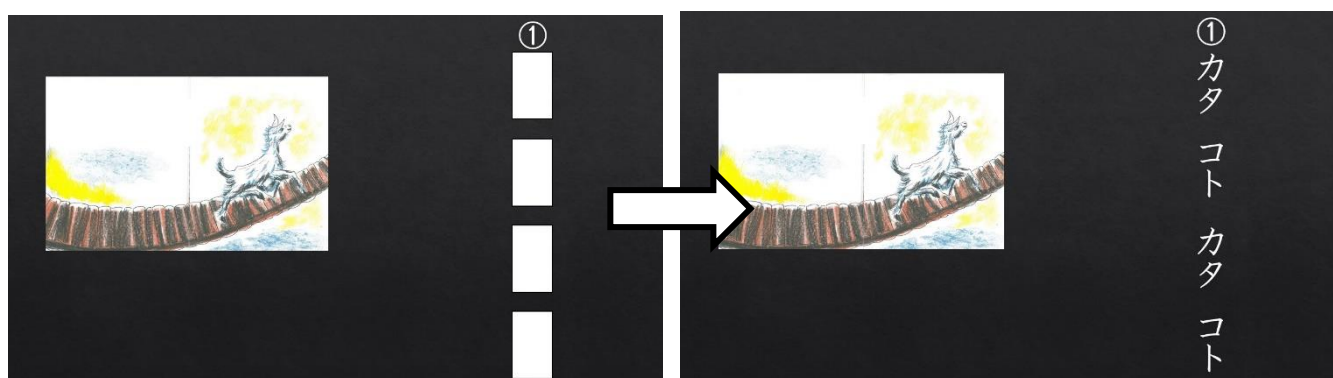
その際に、ただ画面を提示しただけでは子どもの思考が深まることはない。そこで、「(2) I C Tを活用した指導法の工夫」で述べているように教員の指導力を生かしていきたい。

今回意識することは、次の事である。

資料を提示した際、発問や指示を出すことによって、思考を深める。

擬音語を考えさせるところで、「3びきのやぎのがらがらどん」の絵本の場面を使用した。大ききの違うやぎが橋を渡るときにきしむ音を考えさせた。

橋を渡るときに、どんな音がしたでしょうか。



上の絵を提示して、擬音語をかながえさせる。

2番目、3番目とやぎが大きくなるにつれて、音がどうなるか考えることで擬音語について深く考えようとするだろう。



提示された資料を見ながら、指示を出していく。活動が入ることで、集中して取り組むと考える。


- ・予想できたら、挙手をする。
- ・友達と相談する。
- ・ノートに予想を書く。

## 7 本時の指導

### (1) 目標

◎音や様子を表す言葉をすすんで集めることができる。

### (2) 展開 (1/3時間)

過程	学習活動と内容	教師の支援 (・) と評価 (◎)	資料等
はじめ	1 音読教材で、様々なジャンルの文章に触れ、親しみを持つ。	・音や様子を表す言葉の表現を工夫させることで、本時の学習内容について意識させる。	<教材> 話す・聞くスキル
なか	2 様子を表す言葉について考える。 ・「がみがみ」は、怒りながら言っている感じがするね。 ・「はきはき」は、言葉がはっきりしていると思うよ。 ・「むにゃむにゃ」が、眠そうな感じがするね。	・様子を表す言葉は、平仮名で表記することを教える。 ・様子を表す言葉の意味を考えさせるために、その状況にあった場面の画像を提示する。 	PCを使ったパワーポイントの資料 ・「ねむい様子」の画像

	<p>3 音を表す言葉について考える。</p> <p>「3びきのやぎ」の物語から、やぎの大きさによって、橋を渡るとき音を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さいやぎは、「コトコトコトコト」かなあ。</li> <li>・大きいやぎは、「ゴトゴトゴトゴト」なっていると思うよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音を表す言葉は、片仮名で表記することを思い出させる。</li> <li>・様々な意見を認めることで、同じ音でも言葉ではいろいろな表現があることを理解させる。</li> </ul> 	<p>P C を使ったパワーポイントの資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さいやぎや、中くらい、大きいやぎの画像</li> </ul>
<p>おわり</p>	<p>4 音や様子を表す文を書いて検討する。</p> <p>&lt;少しずつ降っている様子&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨がザーザーとふっている。</li> <li>・雨がぼつんぼつんとふっている。</li> <li>・雨がぱらぱらふっている。</li> </ul> <p>&lt;激しく降っている様子&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨がゴォーゴォーふっている。</li> <li>・雨がゴォーとふっている。</li> <li>・雨がジャージャーとふっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨が降っているという状況には、音を表す言葉も、様子を表す言葉もどちらも入れることができることをおさえ、問題を考えさせる。</li> <li>・音を表す言葉なのか、様子を表す言葉なのかを判断させることで、片仮名表記か、片仮名表記か考えさせる。</li> </ul> <p>◎音や様子を表す言葉をすすんで集めようとしている。</p> <p>(関心・意欲・態度)</p> 	<p>P C を使ったパワーポイント資料</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨が少しずつ降っている様子や、激しく降っている様子の画像</li> </ul>



